

大妻女大人間生活科研 ○高部啓子 大妻女大家政 松山容子・秋月光子・九鬼種美・柳澤澄子

大妻女大情報処理・視聴覚教育センター 磯田 浩

目的：被服製作用人台あるいは既製服の検査用人台などを設計するためには、身体の大きさ・形に加えて姿勢に関する情報が必要不可欠である。しかし、それについては従来十分な研究が行われていない。被服製作の実際家が体型分類を、身体側面視シルエットにより試みていることから推察されるように、からだつきの個性や姿勢は身体を側面から見た時にはっきりと現れる。本研究では身体右側面の単写真資料を用い、姿勢に関する情報も含めて身体側面の形状解析を試みた。

資料ならびに方法：資料は1964年撮影の大学女子学生193例の身体右側面の単写真である。実物の1/10に引き伸ばし、写真上に計測点をしるした後、Digitizerにより測定した。すなわち、耳珠点を通る垂線並びに床線を基準線とし、身体輪郭線上の各基準点から両基準線までの距離および基準垂線から反対側の輪郭線までの距離45項目に、身体軀幹部の厚みを表す胸部・胴部・腰部の横矢示数3項目を加えた48項目を解析項目とした。Digitizerによる実測値と各測定値の対身長比の2つの場合について主成分分析を行い検討した。

- 結果：1.測定値そのままの分析では、第1主成分としてsize factor,第2主成分以降にshape factorが抽出され、反身・屈身・前傾・後傾などを示す成分が抽出された。
- 2.身長に対する百分比の分析では、測定値そのままの場合の第2,第3主成分が第1,第2主成分として現れ、sizeの要素が除去されていることが示された。これらにより身体側面の形状を分類することが可能である。
- 3.身体軀幹部の厚みと姿勢を表す成分との関係は認められない。